

29

5月2018

【連載】母と私たちの、初めての在宅ケア

3月、介護ベッドをレンタルし、
車椅子でお花見に行く ～連載⑥文責: がん・バツテン・元気隊 運営委員
大山 薫

全3ページ

介護ベッドに母が工夫をする

話が前後しますが、3月の中旬ごろのこと。

肺がんの母が、息苦しさで眠れない夜が数日間続きました。特に、ベッドで仰向けのまま寝ると苦しいのです。自宅にある枕やクッションを幾つか重ねて対応しましたが改善せず、すぐにケアマネさんに相談し、介護ベッドのレンタルをお願いしました。

届いた介護ベッドの背もたれを上げて寝ると、眠れるようになりました。操作は簡単で、85才の母でも上手に操作できます。しかし、ひとつだけ使いづらい所があったので、母が使いやすく工夫しました。

下の写真に写っている介護ベッドのリモコンは、長さが調節できるコードでベッドに繋がっているため、上部のフック部分を手すりの丸みに引っ掛けます。



しかし、横向きで操作して手すりに戻す際に、フックに上手く引っ掛けられずリモコンを床に落としてしまうと、寝たままでは拾えず、再度起きなければなりません。寝室に1人で寝ていて、拾ってくれる人がすぐ側に居ない場合は、足が悪い母が、また起き上がって動くのは面倒になります。

そこで、母が自分でリモコンに洋裁用ゴムを付け、手すりと結びました。すると、リモコンが手元にも届くようになり、落ちた場合でも床まで落ちずに、引き寄せられる用になりました。

母のアイデアに感心しました。これは、とても実用的です。介護ベッドの製造業者さんに、改善をお願いしたい程です。

にのさかクリニック デイホスピスのお花見に参加する

3月29日、にのさかクリニックの近く、西油山公園でのお花見のお茶会に車椅子で参加しました。



母親の介護をする娘たちが、それぞれの母親の車椅子を押して記念撮影

「手と手」のボランティアさんや患者さんなど、総勢30名くらいです。

暖かな日差しと、満開の美しい桜の木の下で、みなさんと楽しい時間を過ごしました。

母からの聞き書き



久しぶりの外出

昨年の9月から年末まで入院し、今年はずっと在宅療養でした。

外食や、にのさかクリニックの受診以外は、なかなか外出する気持ちになれません。体調もあまり良くなかったのですが、「手と手」のボランティアさん達が、「ぜひ来てくださいね」と声をかけてくれたので、思い切って参加してみました。

遅れて公園に着くと、みなさんが「良く来たね。待ってましたよ」と手を叩き、喜んで迎えてくれました。

それから、「一緒に写真を撮りますよ。待ってるから娘さんも一緒に！！」と、みなさんに歓迎してもらい、とても嬉しかったです。

久しぶりの外出、お天気も良く暖かくて桜もきれいです、楽しい時間を過ごしました。

(つづく)



福岡がん患者団体ネットワーク

がん・バッテン・元気隊

電話 090-9591-7469 (10:00~22:00)

FAX 092-873-2372

E-mail <http://ganbatten.info/contact.html>